



◇指導のねらい

学年で「みんなの役に立つものを作ろう！」という単元で作業学習を行い、学校内のベンチを作ることになった。寄木、木工、縫製、陶芸の4班に分かれてベンチ作りを行い、その中の寄木の班により、座面にタイルを使った装飾を考え、多色のタイルを使い模様を作る作業を行うことにした。

◇基本の使い方

- ① ボンドをつけた板を下の枠にはめ込む
 - ② 金網をかぶせる
 - ③ 見本シートをかぶせる
 - ④ 見本を見て2色のタイルをはめる
 - ⑤ 1列目が終わったら、見本のシートを1枚めくり2列目の見本を出す
 - ⑥ 2列目をはめ込む
 - ⑦ 2列目のシートをめくる
 - ⑧ 3列目をはめ込む
- (⑤～⑧を繰り返す)

◇指導の評価

この作業を始める前の生徒の実態としては、何もない板の上にタイルを等間隔で置いていくこと、金網の枠の中であっても2色のタイルを交互に置いていくことは難しかった。しかし、この生徒は見本をひとつずつ指で確認して見ることができ、色の識別、1対1の対応も理解できたためこの補助具を使い作業に取り組んだ。

最初は1面の見本を使っていたが、ひとつずつ指差ししてはいくものの途中でわからなくなってしまい、手が止まってしまっていた。そこで、見える部分を狭くすることで混乱をなくしていった。次は2列ずつで見本を渡したが、それもズレてしまうことがあったので今回のこの1列ずつというのがこの生徒には合っていた。この方法でこの生徒は作業を一人で進めていくことができるようになり、期間中に12枚の板にタイルを貼り付け、ひとつの座面を仕上げることができた。

この補助具はシートの形を変えることで、生徒の実態に合わせて、多様に行うことができる。見本を見ることができない生徒には、模様に合わせてシートを作り、シートによってできた穴を埋める要領でタイルをつめていくことで多色のタイルで規則的な模様を作ることができた。

